

IFAT Eurasia 2019
ファイナルレポート
 環境技術見本市
 2019年3月28日～30日
 トルコ・イスタンブールエキスポセンター

2019年4月4日

IFAT Eurasia 2019 は国際色豊か

Summary

- トルコ開催の IFAT は 84 か国からの来場者 10,500 人を魅了
- 215 社が出展し、339 のブランドを紹介
- 注目トピック: サーキュラー・エコノミー、漂流・漂着ごみ

Facts & Data

会 期	2019年3月28日(木)～30日(土) 午前10時～午後6時(最終日のみ午後5時まで)
会 場	トルコ・イスタンブールエキスポセンター
主 催	MMI Eurasia Fuarçılık Ltd. Şti.
規 模	(2017年:17,000 m ²)
出 展 企 業	215社(2017年:18か国から412社)
来 場 者 総 数	84か国から10,500人(2017年:68か国から11,326人)
主 な 出 展 品	水抽出技術、上水・下水処理、配水・下水管、廃棄物処理、リサイクル、廃棄物発電、エネルギー効率技術(上・下水、廃棄物、リサイクルのサービス・製品含む)、工場跡地汚染除去、土壌処理、排ガス洗浄、空気抽出技術、防音、測定・制御・ラボ技術、環境マネジメントとサービス、学術研究・リサーチなど
専 用 U R L	www.ifat-eurasia.com
出 展 日 本 企 業	日立造船(株)

2019年3月30日、トルコ・イスタンブールエキスポセンター(IFM)で開催された第3回 IFAT Eurasia が幕を閉じた。今回のこの環境テクノロジー見本市では、国際性が非常に際立った。84か国(前回開催時:68か国)から10,467人の業界関係者が、上下水道・廃棄物・リサイクルに関する最新情報を入手するために見本市を訪れた。前回開催時と比べ、国外からの来場者は、60%増加し、全来場者の16%を占めた。

サーキュラー・エコノミーへの転換はどのように進められるのか。これはイスタンブールエキスポセンター(IFM)で開催された3日間の見本市において重要な論題であった。そのための議論は、トルコだけではなく、全中東・北アフリカ(MENA)諸国や中央アジアに対しても焦点を当てて行われた。BlackForest SolutionsのCEOで、RETech German PartnershipのMENA諸国Working Group長であるSebastian Frisch氏は、「サーキュラー・エコノミーは生活水準を向上させるばかりでなく、経済生産の多様化にも貢献する。MENA諸国は、中長期的にはヨーロッパレベルに到達することを考えている。IFAT Eurasiaの技術的ソリューションは、この地域のそのレベルアップにとって大きな弾みとなるだろう」と語った。

ユーラシア諸国の河川・海における漂流・漂着ごみを減らすために、廃棄物サイクルがどのように機能するかというテーマで、トップクラスの科学者、政治家、産業専門家、NGOによるパネルディスカッションが、専門家支援プログラムのオープニングで行われた。ディスカッションにおいて、トルコ環境・都市計画省沿岸管理長 Kerem Noyan氏は、「観光事業部門は、特にクリーンな海洋環境から恩恵を受ける側として、環境問題にもっと責任を果たすべきである。旅行事業者やホテル経営者は、漂流・漂着ごみのない海を実現するために、全沿岸地域を対象とした、対漂流・漂着ごみアクションプランの主要ステークホルダーなのだからだ。アクションプランには、廃棄物のホテル内完全処理、船舶廃棄物の受入施設への搬入、これに関連して、ヨットや小型船用に開発されたブルーカード船舶廃棄物追跡システムの利用、国民啓発キャンペーン、旅行者向け行動案内、清掃実施とその予防対策などが挙げられる」と述べた。

IFTA Eurasiaの上下水道コーナーでは、衛生化が主要テーマの一つであった。ドイツ上下水道廃棄物協会(DWA)のRoland Knitschky氏は、「衛生浄化のための技術は、飲料水、工業用水の分野で必要性が高い。中央アジアから来たグループは、或る特定の産業から出る問題廃水の処理プロセスを含め、排水問題に注目していた」と述べた。

アジアとヨーロッパをつなぐ主要な貿易拠点として

当見本市は、トルコのビジネス拠点イスタンブールで3日間開催され、10,467人の来場者があった。メッセ・ミュンヘン Eurasia 代表の Osman Bayazit Genç は、「IFTA Eurasia は、アジアやヨーロッパから来た意思決定者やバイヤーといった、正にプロの来場者を満足させた。両大陸の環境市場をつなぐための最も重要な拠点であると、改めて認識させられた」と語った。

この地域の現在の諸状況にも関わらず、国外からの来場者は増え続けている。国際 IFAT 見本市エキシビショングループ代表 Christian Rocke は、「国外からの出展社数は全体の約 40%を占め、同来場者は 60%増となった。さらに、国外からの業界団体数は過去最多となった。これはこの地域の市場に対する信頼の証といえる」と語った。

トルコに続いて、出展企業が多かった国は、ドイツ、中国、スイス、オーストリア、イタリアの順であった。今回のトルコ開催見本市には、初めてカナダ、ブラジル、ウクライナ、ガーナの企業も参加した。また、新たな国際協力団体として、ドイツ廃棄物・水・原材料管理産業連盟 (BDE)、国際リサイクル局 (BIR)、ドイツ RETech パートナーシップが参加した。

出展企業 Emi Çevre 社の環境エンジニア Berkay Koç は、「この見本市に参加して非常に満足している。私たちは、特に、ルーマニア、フィンランド、ポーランド、ギリシア、モナコ、そして、そのほか様々な国から来た多くの人との出会いができた。2021 年もまた出展したい」と述べた。イラン、イラク、ヨルダン、レバノン、カザフスタン、モロッコ、モルジブ、キプロス、ロシア、チュニジア、アラブ首長国連邦からの多数のビジネス代表派遣団のために、三つの展示ホールには、プレゼンテーションエリアとネットワーキングエリアが別々に設置された。

支援プログラムのもう一つのハイライトとして、国際環境会議(略して IREMCON)が開催された。「地球規模気候変動との闘いと廃棄物管理の国際協力強化」の旗の下、トルコとバルカン地域全体の重要な環境会議が、今回初めて IFTA Eurasia 内で開催された。もう一つの新しい試みとして、バイヤーミッションプログラムが挙げられる。トルコ経済省の企画で、ソリューション提供者とソリューション探求者に的を絞った形で開催された。

IFAT 開催、今年のスタートを切る

IFAT Eurasia は、2019 年に開催される六つの IFAT 国際見本市のうち、最初に開催された見本市だ。続いて、上海の IE expo China (4 月 15 日～17 日)、初回開催となる成都の IE expo Chengdu (6 月 27 日～29 日)、ヨハネスブルクの IFAT Africa (7 月 9 日～11 日)、広州の IE expo Guangzhou (9 月 18 日～20 日)、ムンバイの IFAT India (10 月 16 日～18 日)が開催される。それらの母体である、世界有数の見本市 IFAT ミュンヘン開催とともに、この六つの IFAT は、環境技術における世界最大かつ最先端のネットワークを形成している。

次回 IFAT Eurasia は、2021 年春、トルコ・イスタンブールで開催される。

詳細情報はこちらから：www.ifat-eurasia.com

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社 メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語 / ドイツ語)